

## 令和2年度 自己評価及び学校関係者評価書(中間・最終)

輪島市立河原田小学校

	評価項目	達成状況	改善の方策(上段:中間 下段:最終)	評価委員による意見(上段:中間 下段:最終)
学力向上	「できる・わかる」授業で、意欲的に学ぶ児童を育成している。	B A	分からなかったことは、授業中の個別の支援や放課後に個人指導で補充学習を行う。わかるまでがんばろうとする学習態度を育てていく。 共通理解を図り、授業改善を進めるとともに、つけたい力を明確にし、「できるようになった」と児童自身が実感できることを目指して指導していく。	・学校は頑張っていると思う。児童クラブへ来る前に教室で勉強てくる子が増えた。 ・返事の仕方など、しっかり口が開いていない感じが気になる。言いたいことをしっかりと伝えるようにと家でも言っている。他のお子さんはどうか。 ・姿勢は、「机との間はこぶし1分」などの具体的な指示があるといい。 ・テレビを見る姿勢なども声かけが大切。家庭でも声かけをしていくといい。 ・児童クラブで見ていると、漢字の「一」ばかり書くような子どもはいなくなつた。 ・高学年による自学ノート点検は先生の点検とは違ってよいと思う。 ・いつもは雑な字の子がきれいに書けた日に理由を聞くと「ママが調べる日だから」と言っていた。家庭でも見てほめてやることが大切だと思う。 ・まず宿題、その後ゲーム、の習慣をつけたいが「後で必ずするから」とあと回しの日もある。
	姿勢や話しかけ・聞き方等の指導と家庭学習の習慣化など、よりよい学習習慣を身につけさせている。	B B	学びの4ヶ条の意識化を図る。反応しながら聴く学習態度や、反応を確かめながら話す姿勢を、授業や普段の生活、集会でも声かけをしていく。 自分たちの聞く態度や話す姿勢をビデオで確認し、意識付けを図るなどの取組を進めた。6年生による自学ノートの点検で意欲をもてた児童もいたので活性化の工夫をしていく。	
	児童の実態を把握し、表現力やコミュニケーション能力の向上に努めている(学校研究)。	B B	家庭学習の内容の向上に向けて工夫をすると共に、「議論し、話し合う道徳授業」の充実に努める。 道徳授業の充実のため、職員の研修を行った。聞く人に分かりやすく話したり説明したりすることを授業だけでなく日々の学級活動や生活の中でも意識させる声かけをしていく。	
心の教育・健康体力について	自己肯定感を高める取組を通して、よりよい人間関係づくりに努めている。	B B	児童同士の温かい人間関係づくりに努めると共に、ほめられて嬉しかったことがあまりないと答えた児童に対する見とりや声かけを特に心がけていく。 学級での「いいとこみつけ」や学級活動のなかで自分のよさに気づかせ、言葉で伝え合う活動を大切にする。職員間でも情報共有し気になる児童への声かけを学校全体で行う。	・不公平のないようにほめることが大切。小さなことでもほめてもらえる子とそうでない子が出ないようにしてほしい。 ・家で見ているとスマホをさわっている時間がが多い。 ・自転車のヘルメットは装着100%にしなければいけない。 ・挨拶は、家と学校では違うのか、親からの声かけが大切。 ・車の送迎が多く、人に会わないという点もあるのではないか。街頭に立っていると、一人で歩いてる子は話しかけてくる。
	元気で礼儀正しい挨拶ができるなど、規範意識や道徳性のある教育をしている。	B B	学校以外や家庭の中でもあいさつが大切なことや、ゲームやネットの約束について、学校・家庭・児童が共通理解できるように働きかけていく。 保護者アンケートでも評価の低い項目なので、家庭でも学校でも望ましい行動ができるように指導を継続する。	
	読書に親しむ児童を育成している。	C C	図書委員会や司書、読書ボランティアを中心に、お気に入りの本やジャンルが見つけられるように読書の楽しさを伝えていく。 たくさん読む子と読まない子が固定している。保護者も子どもの読書が少ないと感じている。学級単位で図書室を利用する時間をつくるなどの取組を工夫していく。	・自己肯定感を高めるため、長所を大きく見せて短所は目立たなくできる「いいとこみつけ」や言葉の伝え合い等少人数の学校ならではの先生達の児童への声かけはよいと思う。 ・算数、英語は基本が分かれればできる。理科、社会は覚えるもの。国語の力をつけることは難しい、本を読むという習慣は大切だ。 ・読書に親しむ環境を整えるだけでよいのではないかと思う。 ・読書は大事。膝に載せて童謡を歌ってやるところから始まっているのではないか。 ・ゲームをしながらでもずっとしゃべり続けている様子がある。
	規則正しい生活リズムを基盤とし、体力・運動能力の向上と健康や安全教育に努めている。	B B	ヘルメット所持100%を目指すと共に、早寝早起きと運動しているゲーム・ネットの約束を守ることの声かけをしていく。 今年度は学級懇談など保護者と直接話題を共有する機会も少なかった。学級・学校だよりを通して保護者への働きかけをしていく。	
	心身の健康を大切にするために、働き方や業務の縮減に努めている。	C B	ICT機器のさらなる活用をはかり、スクールサポーターなどの力も借りて引き続き業務改善と意識改善に努める。 業務改善への意識は高くなっている。互いに協力して効率的な仕事をすると共に、業務内容についても、大切なことは何かを考え見直していく。	
家庭・地域との連携	保護者に、児童の様子や成長について細やかな伝達ができている。	B A	心がけて伝える努力をすると共に、職員間での情報交換も丁寧に行うよう共通理解し声かけをしていく。 保護者のコメントにも感謝の言葉が多かった。引き続きよさや頑張りを伝えていくようにする。	・否定的な意見の保護者(3%)の意見を丁寧に聞いてあげてほしい。 ・コロナ対策で「密」ばかり問われる中、この1年できる範囲での行事ができたのはよかったと思う。「河原田小は普段通りにやっても密にはならないのにな」と思いつつ、よく先生方は対策されていたと思う。
	PTA役員や各委員会と協力して事業を進め、学校と家庭との連携が図られている。	B B	否定的な意見の原因がどこにあるのかを職員で共有し、学校全体で改善に取り組む。保護者の意見や要望も共通理解する。 行事が少ない中で、積極的に参加していただき、協力して運営てきた。今後も保護者と意見の共有ができるように雰囲気づくりをしていく。	・児童の登下校時に近所で見守ってくれる人がいるといい。 ・保護者の交流の場が減った。学校へ行く機会も減り、外で遊ぶことも減った。遊びも変わった。 ・交流は難しかった。対策を講じながら工夫が必要である。 ・新型コロナウイルスの影響で大きなイベントがなく機会が減少したので来年度は実施できることを期待する。
	地域の人材や自然・各施設など、地域と連携した教育活動を行っている。	B B	地域人材や施設の活用について、次年度へ申し送りすると共に、学校側から積極的に働きかける姿勢もちたい。 社会情勢に応じて、感染対策をしながら、地域の教育力を生かせるように働きかけていく。	
【A:十分達成している(そう思う) B:おおむね達成している(ややそう思う) C:どちらかというと達成されていない(あまりそう思わない) D:ほとんど達成されていない(そう思わない)】				
総合評価意見	中間	子どもは一人の人間であり、環境によって変わる。預かった子ども全ての頭を揃えるのは無理。その子のペースを大切に、長所を伸ばす環境が大切。どの子も「小学校楽しかったなあ」と思える学校生活であってほしい。	最終	できるだけ先生方が早く帰れるように…と思う、遅くまで仕事をしている様子もあり、これ以上学校に何かしてくれとはいえない。学校の職員はよく頑張っていると思う。全体的に自己評価が厳しいが、Aにしてもよい項目はもっとあるように感じる。保護者、教職員共にアンケート結果が良好に推移しているように思える。来年度以降も更なる良い学校となるようがんばってほしい。